

ホーチミンでの日本語教師ボランティア その3

実習生の年齢は殆ど 20 歳代です。10 歳代後半、30 歳代前半もいますが、ごく稀です。実習生の男女比はほぼ同じで、男性が多いと思っていたので、これは意外でした。貧しい家庭の子が多いと思われがちですが、そうでもなく、全員が高校、あるいは大学を卒業し、中には英語を話せる子もいます。ベトナムでは職業の選択範囲が狭く、日本に行くことで将来を切り開きたと思っている人もいますが、お金が欲しいが本音のようです。既婚者もあり、子供や配偶者と離れるのは寂しいでしょう。中には奥さんが先に実習生として日本で働いている人もいました。任期はほとんどが 3 年で、少ないですが 1 年もあります。

ベトナム帰国後に何をしたいかと聞くと、大半はベトナムにある日系企業で働きたい、日本語の先生になりたいと答える実習生が多いです。

ベトナム人教師が文法、語彙、定型文を教え、私は主に会話と各段階での進捗度チェック、出国前の会話チェックを担当しています。



日本語センターの教室の様子

ベトナム人にとっては“つ”の発音が難しく、“ちゅ”と発音する人が殆どです。例えば、“1つ”、“2つ”、“3つ”……を“ひとちゅ”、“ふたちゅ”、“みっちゅ”……。

“シャツを買う”を“シャチュを買う”等です。その都度、口の形を示して“つ”と発音してみせるが、簡単には直りません。それと“ゆ”を“じゅ”と発音し、“ゆっくり”を“じゅっくり”と言う実習生が多いが、両者の口の形はほぼ同じであるため、教えるのはかなり難しいです。

その他では“～ました。”、“～でした。”の“し”が促音となり、“～まった。”、“～でった。”と言う実習性も多いです。

ベトナム語に時制（テンス）がなく、昨日、今日などの単語、または文脈で時制を区別しているようです。そのため“～です。”、“～でした。”が曖昧で、かなり日本語が上達した実習生さえ間違えることがあります。「3

年間、お世話になります。」と言うべきところ「3年間、お世話になりました。」と言い、指摘され漸く気づくようです。母語の影響は本当に大きいと感じます。

出国の日が近づいてくると、実習生は日本語の勉強以上に自分の行く会社やその地域への関心が高まってくるようです。インターネットで会社のホームページやグーグルマップ



日本語センターでの記念写真
後列のスーツを着た人が出国する実習生
白い服を着た人はベトナム人の先生

／アースで会社の建物、近くの道路の様子を見せてやると本当に喜びます。自分の友達が住んでいる所、有名な観光地等までの行き方、旅費についても頻繁に聞いてきます。日本の物価についても関心があるようで、冬物の衣類はいつ買うと安いか、日本の食べ物はベトナムに比べどのくらい高いか等もよく聞かれました。

日本語センターの掲示板に、創立してから現在まで日本へ出国した実習生の人数が都道府県別に掲示してあります。九州、中国地方、中部地方が多く、寒い北海道や東北地方は敬

遠されているようです。

途中帰国者が約3%、失踪者が約4%程います。途中帰国者は、家庭の事情、自分の健康状態等により残念ではあるが帰国しなければならなかったのでしょうか。失踪者が約4%は予想外で、彼ら、彼女らは、現在どのような生活をしているか心配です。出国時は多少の不安はあるものの、希望を持ち日本に向かった筈です。本人は悩み、迷った結果、失踪したのですが、本当に間違った選択をしたものだと思います。

全員が無事、任期を終えベトナムに帰国することを願っています。



空港での記念写真
スーツを着た人が出国する実習生
その他は見送る実習生